

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	42人	算数	42人	理科	42人
第5学年	国語	27人	算数	27人	理科	27人

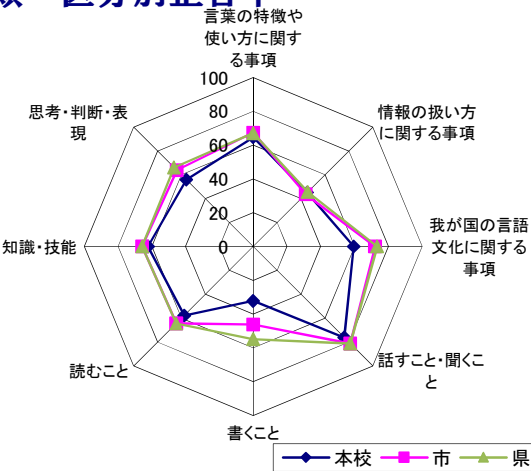
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	64.6	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	45.2	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	59.5	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	76.2	81.2	81.2
	書くこと	32.1	46.2	54.9
	読むこと	57.7	64.3	64.5
観点	知識・技能	62.3	65.7	65.7
	思考・判断・表現	56.0	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

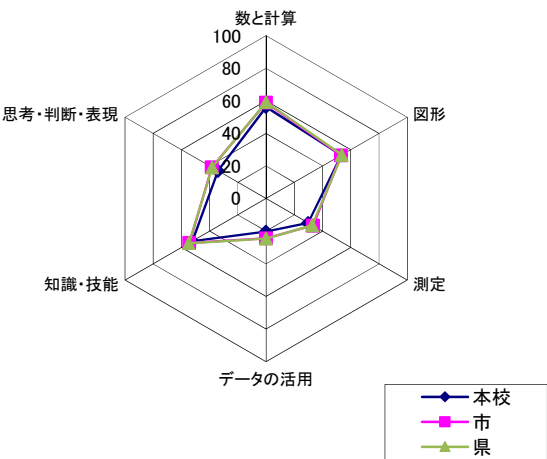
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率は、市の平均より2.8ポイント低い。 ○第3学年に配当されている漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題で「洋服」の漢字の正答率は、市の平均よりも7.4ポイント高い。 ○ローマ字で表記されたものを正しく読むことができるかどうかをみる問題では、市の平均よりも5ポイント高い。 ●第3学年に配当されている漢字を正しく読むことができるかどうかをみる問題の「都合」の読みの正答率は、市の平均よりも21.5ポイント低い	・授業だけでなく、学校生活や家庭学習などで、漢字や文章を読み書きする機会を意図的に多く設け引き続き漢字の定着を図っていく。 ・ローマ字の読み書きについては、拗音や促音、ローマ字特有の記述の定着を図るためにタイピング練習を行い、正しい読み方や書き方ができるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率は、市の平均より1.4ポイント高い。 ○国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる問題の正答率は、市の平均よりも1.4ポイント高く、文章に合うような言葉の意味を選択することができる。	・国語辞典を使用する機会を増やし、使い方に慣れるとともに、語彙力を高めることで、文章に合うような言葉の意味を選択できるようにしていく。
我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は、市の平均より12.6ポイント低い。 ●漢字のへんとつくりを正しく組み合わせることで既習の漢字をつくることができるかをみる問題の正答率は、市の平均よりも12.6ポイント低く、へんとつくりを正しく組み合わせることで既習の漢字を作ることへの理解について課題が見られている。	・漢字の学習の際には、部首の名称を意識させながら指導を行うことで、知識の定着を図りたい。 ・部首クイズや部首カードゲームなどを取り入れて、漢字について日常的に触れられるようにすることで、興味を持たせたり、理解力を高めたりしていく。
話すこと・聞くこと	●平均正答率は、市の平均よりも5ポイント低い。 ○司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめることができるかどうかをみる設問は、市の平均より5.9ポイント高い。 ●相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話すことができるかどうかをみる問題の正答率は、市の平均よりも12.2ポイント低い。	・話し手が伝えたいことの中心を捉えることはできているので、グループ活動や話し合い活動を多く行う中で、より話を聞く力が高まるようにしていく。 ・ペアでの対話や考えや感想を発表するなどの機会を多く設け、表現力の向上を図っていく。 ・意見の共通点や相違点に着目して課題を解決するような学習活動を通して、自分の考えをまとめる力を高めていく。 ・学校生活の様々な場面で話す、聞く態度を指導していく。
書くこと	●平均正答率は、市の平均より14.1ポイントも低い。 ○どの設問においても無回答率が19.1%と市の平均よりも低い。 ●指定された長さや段落構成を理解し、自分の考えを明確にして文章を書くことに課題が見られる。	・書くことへの抵抗をなくすように、授業の振り返りや一言日記などで書く、まとめるなど自分の考えや理由を書く機会を増やし、文章を書く習慣をつけていく。 ・授業や家庭学習において、指定された長さでテーマに合った文章を書く課題を積極的に取り入れて文章を書く力が身に付くようにする。
読むこと	●平均正答率は、市の平均を6.6ポイント下回っている。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができるかどうかをみる問題の正答率は、市の平均を2.1ポイント上回っている。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約することができるかの設問では、市の平均より16.4ポイントも低く、無回答も14.3%と多く、課題が大きい。	・時間配分を考えながら問題を解く練習を繰り返し行い、無回答にならないよう指導する。 ・物語や説明文の学習を行う際に、文章を場面や意味のまとまりに分けるような学習活動に時間をかけることで、構造的に文章を読む力を高めていく。 ・場面の様子や気持ちを考える際に、その理由など業間を読むような問い掛けを行いながら、読解力を高めていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.2	58.9	59.2
	図形	53.2	53.0	53.7
	測定	29.8	33.1	32.6
	データの活用	20.2	24.4	24.6
観点	知識・技能	52.3	54.3	54.7
	思考・判断・表現	34.2	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

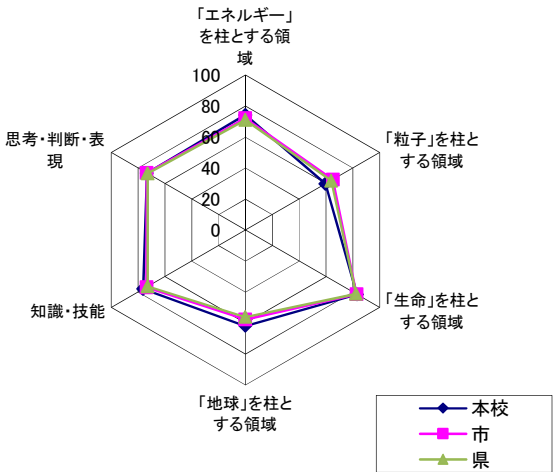
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は、市平均より2.7ポイント低い。 ○簡単な四則計算の正答率は7～8割ある。 ●大きな数の表し方や構成の理解の問題では正答率が市平均より21.3ポイント低い。位に0が入るときの処理に課題が見られた。 ●□を使った乗法の式に合った文章を選ぶ問題は、市の平均より15.9ポイント低い。	・大きな数の構成については、位取り表などを使用し、正しい位取りができるように理解を図る。 ・文章題では、問題の意味を理解できるように、よく読むことや図に表すなどして、常に立式を意識した指導を継続する。 ・朝の学習や宿題などで繰り返し加減乗除の文章問題に取り組み、文章を読み取り四則計算の判断をする力を養う。
図形	○平均正答率は、市平均より0.2ポイント高い。 ○球の性質を利用し、長さを求める問題の正答率は市平均より4.3ポイント高かった。 ●コンパスを用いて、円の性質を利用して正三角形を作図する問題は市平均より6.7ポイント低かった。二等辺三角形を書いてしまう児童が多く見られた。	・コンパスや定規などさまざまな教具を使った作図の機会を設けたり、円を活用して作る図形について復習したりする。
測定	●平均正答率は、市の平均より3.3ポイント低い。 ○地図から道のりを読み取り、2つの道のりの差を求める問題の正答率は市平均より3.7ポイント高い。 ●はかりの目盛りを読み取り重さを答える問題の正答率は21.4%、合計の重さの大小を比較する問題の正答率は19.1%と、いずれも市の平均よりも低く、課題が見られた。	・はかりの読み取りについて、目盛りを読むときには1目盛りが表す値が重要であることを再度確認し、類似問題を通して定着を図る。
データの活用	●平均正答率は、市の平均より4.2ポイント低い。 ○棒グラフの読み取りの問題の正答率は、市平均より2.9ポイント高かった。 ●棒グラフの特徴と利点を理解し、身の回りの事象について活用できるかをみる問題では、平均正答率は市平均より5.8ポイント低く、記述式回答の無回答率が42.9%であり、記述式の回答やデータの活用に課題が見られた。	・他の教科で棒グラフなどのデータを読む場合でも、読み取ったデータの活用場面を設ける。また、授業中にデータについて記述する学習を充実させることで、記述する回答に抵抗なく取り組めるようにする。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	74.3	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	59.5	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	83.1	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	61.9	57.7	56.2
観点	知識・技能	76.2	73.8	72.8
	思考・判断・表現	73.4	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は、市の平均正答率より2.2ポイント高い。 ○磁石の性質を使って車を動かす向きを推測する問題の平均正答率は、81.0%で、市の平均正答率を12.6ポイント上回っている。 ○「風やゴムの動き」では、実験の結果からゴムを伸ばす長さや車の動く距離を推測する問題の平均正答率は、76.2%で市の平均正答率を5.1ポイント上回っている。 ●「音のせいしつ」では、大きい音は、震え方が大きいことを理解する問題では、市の平均正答率を7.1ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・楽器などで音を出したときの経験を振り返らせるなど、学習と生活を結び付けた学びができるようにしていく。
「粒子」を柱とする領域	●平均正答率は、市の平均正答率より5.7ポイント低い。 ○形を変えても重さは変わらないことについて理解しているかどうかをみる問題の正答率は、78.6%で、比較的多くの児童が正答していた。 ●「ものの重さ」では、短答式で答える問題が答えられておらず、体積について理解できていないことに課題が見られた。	・プリントやAIDリルで復習を行い、体積についての知識の定着を図る。そして、今後も授業の中に実験など体験的な活動を取り入れ、学習内容の定着を図っていく。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は、市の平均正答率より0.3ポイント高い。 ○虫眼鏡の使い方についての問題では、平均正答率は71.4%で、市の平均正答率を16.7ポイント上回っており、正しい使い方が身に付いていると考えられる。 ●「こん虫の育ち方」では、モンシロチョウ、カブトムシの育ち方とショウリョウバッタの育ち方の違いについての問題で、市の平均正答率を5.4ポイント下回っている。	・身近な自然の観察は、実際に校庭やまごころ広場に行って生き物や植物を虫眼鏡で見ることによって観察の仕方が身に付いてきているので、引き続き指導していく。 ・図鑑やICTを活用して、昆虫の育ち方の違いについて理解できるよう指導していく。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は、市の平均正答率より4.2ポイント高い。 ○「かげと太陽の動き」では、かげが太陽の反対側にできることを理解する問題で、市の平均正答率を9.0ポイント上回っている。	・方位や方位磁針の使い方をもう一度振り返えさせ、影と太陽の位置を正しく捉えられるよう、引き続き指導していく。

宇都宮市立城山中央小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○自分自身のことについて、「自分には、よいところがあると思う」は、92%が肯定的回答で市平均を8ポイント上回り、「自分の行動や発言に自信をもっている」は83%が肯定的回答で市平均を15.2ポイント上回っている。また「将来のゆめや目標をもっている」でも92%の児童が肯定的回答をしている。今後も一人一人のよさに目を向け、児童の成長を見守りたい。○家での生活について、「毎日、朝食を食べている」は95%、「早寝、早起きを心がけている」は88%の児童が肯定的回答をしている。また、「ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、すいみんをとることが最も多いですか」では、8時間以上が78%だった。規則正しく、健康的な生活が送れていることがうかがえる。今後も家庭と連携して、家庭での時間の使い方やよりよい過ごし方について継続していくようにしたい。

○学校での様子については、「自分はクラスの役に立っていると思う」は73%が肯定的回答で市平均を6.5ポイント上回り、「学校での役わりや係の仕事に責任をもって取り組んでいる」は97%が肯定的回答をしている。教室に居がいを感じ、学級での役割にやりがいを感じていることが伺える。また、「授業を集中して受けている」は95%が肯定的回答、「むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」は85%が肯定的回答をしている。前向きに学習に取り組んでいることが分かる。

●「グループなどで話し合いに自分から進んで参加している。」では、肯定的回答が61.9%で、市平均を16.7ポイント下回っている。話し合い活動に苦手意識を感じている児童が多いことが考えられる。各教科の授業の中で、積極的に話し合い活動を取り入れることにより、一人では気付くことのできないことに気付くといった経験をすることによって、友達と話し合いをすることの良さを実感させていき、話し合い活動に対する苦手意識を取り除いていきたい。

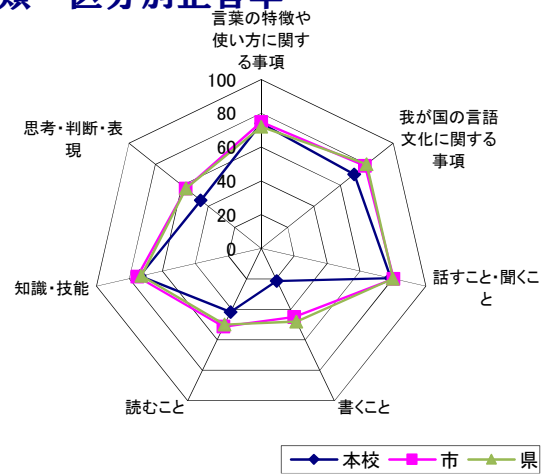
●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」では、肯定的回答が45.3%で、市の平均を6.7ポイント下回っている。自分の意見や考えに自信が無かったり、間違いを恐れたりなどの理由が考えられる。自分の考えや意見に自信がもてるように、机間指導の際に声掛けをし自信を持たせたり、クラスの中で積極的に発言ができるような環境作りをしたりするなど、安心して自分の意見を発表できるようにさせていきたい。

●平日の1日当たりのテレビを見る時間については、3時間以上と答えた割合が33.4%と市平均を2.1ポイント上回っている。また、平日の1日当たりのゲームの時間についても、2時間以上と答えた割合が47.7%と市平均を6.4ポイント上回っている。また、読書の時間が10分以下の割合が45.2%と市の平均よりも10.3ポイント上回っている。家に帰ってからの過ごし方が、ゲームやテレビに多く時間が割かれている児童が多い。家庭での学習の時間を増やし、読書に目を向けさせるような指導の充実を図っていきたい。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.1	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	70.4	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	78.7	80.4	80.0
	書くこと	21.3	45.1	48.0
	読むこと	41.7	51.3	50.0
観点	知識・技能	73.7	75.2	72.8
	思考・判断・表現	45.8	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

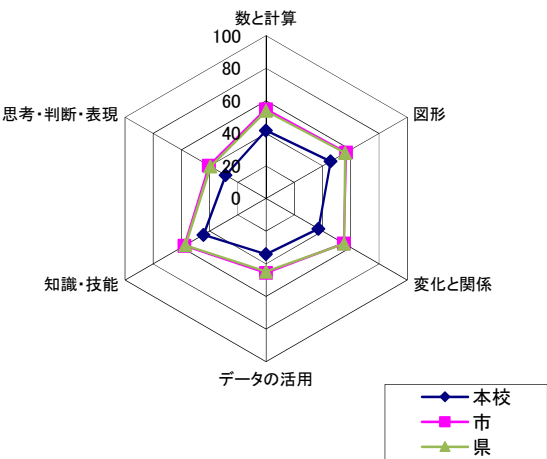
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率は、市の平均より0.7ポイント下回った。 ○漢字の読み書きはほとんど市の平均を上回っている。正答率が100%の問題もあり、無回答率は市の平均を下回っており、漢字の定着は図られている。 ●修飾、被修飾の関係を捉える問題は全ての設問で市の平均を大きく下回った。	・漢字については無回答率が低く児童の意欲は高いことが分かる。スマイルドリルなど自分で学習を進められる学習活動を取り入れ、引き続きドリルや宮こステップアップシートを活用して基礎基本の定着を図る。 ・修飾、被修飾の関係は、普段からの日記、作文など書く活動を行ったり、再度とちぎっこフォローアップシートを活用したりして復習する。
情報の扱い方にに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	●平均正答率は、市の平均より8.2ポイント下回った。 ○慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる問題の正答率は70%を超えており、無回答は0%であった。 ●慣用句「頭をひねる」の正しい使い方を問う設問であった。市に比べて慣用句としての意味ではなく、「その方向に頭をひねった。」という日常会話として使う表現の誤答率が2倍と高かった。慣用句という意味を理解していない児童が多い。	・無回答がなく児童の意欲があると思われる。自ら行える読書を推進したり、自主学習で辞書を使ってことわざや慣用句を調べる学習を取り入れたりし、語彙を増やす活動を行う。 ・故事成語の本などを教室に常備したり、ことわざかるたを行ったり、楽しんで学べる機会を設ける。
話すこと・聞くこと	●平均正答率は、市の平均より1.7ポイント下回った。 ○話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題の正答率は、市の平均を5.9ポイント上回った。 ●話し手が伝えたいことがの中心を捉える設問では、他の設問より大きく11.1ポイント下回っている。	・平均を下回った問題は話の内容を捉える設問である。話を聞いて要点を捉える力を育成するために、児童同士の質問の受け答えの場や、聞いた話を要約する活動を増やしていく。また、質問ゲームや複雑な伝言ゲームを行い、楽しみながら学習できる場を設定する。 ・市に比べて無回答が無く、自分の考えを書くことができるので引き続き書く指導を行っていく。
書くこと	●平均正答率は、市の平均より23.8ポイント下回った。指定された条件に合わせて文章を書くことに課題がある。 ●無回答率が、市の平均より7.9ポイント上回った。これまでの設問の無回答率が0ポイントだったことから、テストの問題を解く時間が足りなかったと推測される。	・文字数や時間を指定し、テーマや条件に合った文章を書く課題を取り入れ、文章を書く力が身につくように指導する。 ・普段から時間配分を考えながら問題を解く練習を行い、無回答にならないよう指導する。 ・文章を書く型を提示し、文章を書くことに慣れるようにしていく。 ・日々の日記や振り返りの文章を書く活動を通して、文章を書くことを習慣化する。
読むこと	●平均正答率は、市の平均より9.6ポイント下回った。 ○叙述を基に段落相互の関係を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は、市の平均を2.9ポイント上回った。 ●無回答率が、市の平均より9.6ポイント上回った。これまでの設問の無回答率が0ポイントだったことから、テストの問題を解く時間が足りなかったと推測される。 ●文章を読んで話の内容を捉える設問の2問とも市の平均のポイントの約2分の1の正答率である。文章に書かれている様子を読み取ることができるが、思考を必要とする内容を捉える設問は難しい。	・普段から時間配分を考えながら問題を解く練習を行い、無回答にならないよう指導する。 ・物語文の場面の様子や気持ちを考える際に、叙述を元の内容を読み深めるような問い返しを行うことにより、読解力を高めていく。児童がペア学習などで主体的に活動し、対話的な学習活動を取り入れることにより思考力も高めていきたい。 ・短い文章の読解問題を繰り返し行い要点を捉える指導をする。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	41.8	54.9	53.7
	図形	45.7	56.6	56.1
	変化と関係	37.0	55.1	55.2
	データの活用	34.1	45.5	44.8
観点	知識・技能	44.4	57.8	57.2
	思考・判断・表現	28.6	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

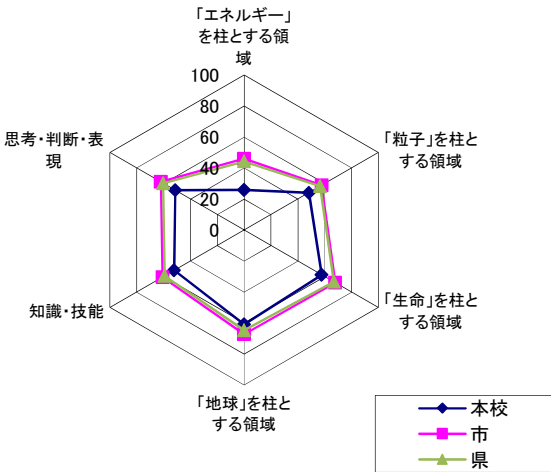
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は、市平均より13.1ポイント低い。 ○3桁÷2桁(余りあり)の計算や小数第一位×整数の計算の問題の正答率は、市平均と同程度である。 ●大きな数の表し方の問題の正答率は、市の正答率が80%を超えているのにも関わらず、本校は19.8ポイントも低い。 ●表を横に見て、使用した棒の本数がいくつ増えているかを答える問題の正答率は、市の正答率が80%を超えているのにも関わらず、本校は21.1ポイントも低い。 ●金額を切り上げて百の位の概数にして計算する問題は、市平均より26.9ポイント低い。	・大きな数の構成については、位取り表などを使用し、正しい位取りができるように理解を図ったり、数のまとまりがいくつ分なのか正しく処理できるように繰り返し練習する。 ・概数については、四捨五入の仕方や概数の表し方を復習し、正しい理解につなげる。 ・朝の学習や宿題などで繰り返し加減乗除の計算問題を行い、確実な定着を図る。
図形	●平均正答率は、市平均より10.9ポイント低い。 ○直方体の面に垂直な辺をすべて答える問題の無回答率は、市平均よりも2.8ポイント低い。 ●三角定規の角度を利用しておおよその検討をつける問題の正答率は市平均より22.6ポイント低い。 ●コンパスとものさしを用いて、平行四辺形を作図する問題は、市平均より16.1ポイント低い。	・角の大きさの問題について、三角定規や分度器などを用いて確認したり、図に表したりして、知識・技能の定着を図る。 ・コンパスやものさしなどさまざまな教具を使った作図の機会を設ける。
変化と関係	●平均正答率は、市平均より18.1ポイント低い。 ●表を横に見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題では、市平均より21.2ポイント低い。 ●割合のしくみを理解しているかどうかをみる問題では、もとにする量の何倍か求める問題が市平均より23.9ポイント低い。	・表を読み取る問題では、縦の関係と横の关系到に着目させ、どのようなきまりがあるかを確認し、類似問題を通して定着を図る。 ・数量の関係の問題については、何倍の求め方を復習し、図に表すことで数値の大小が分かりやすいことに気付かせ、数量の理解を図る。
データの活用	●平均正答率は、市平均より11.4ポイント低い。 ○グラフから正しく変化を読み取る問題の正答率は、市平均よりも1.7ポイント高い。 ●二次元表を見て、なんの数を表してるか記述する問題の正答率は市平均よりも18.8ポイント低い。無解答率が高く、二次元表の読み取り方を理解していないという課題が見られた。	・二次元表を読み取る問題では、与えられた数を表に書き込み、計算することによって他の値が求められることに気付かせ、二次元表の数値の関係を理解できるようにする。また、数値について言葉で説明させることで読み取りの力を高める。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	25.9	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	48.2	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	57.8	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	60.9	67.2	64.6
観点	知識・技能	52.1	60.8	59.2
	思考・判断・表現	51.3	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	●平均正答率は、市平均と比べて20.1ポイント低い。 ●電気に関する単元の正答率は、どの問題も市平均よりも15ポイント以上低い。	・自然科学の知識を身に付けて実感を持った理解が得られるように、実験前に既習事項をもとに予想をさせたり、見通しを持たせたりする活動を工夫することにより、実験の改善を図っていく。 ・実験を行う授業の際には、正しい操作方法と、正しい器具の名称を覚えて実験をするように指導を徹底する。 ・Aドリルやプリントで復習を行い、知識の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	●平均正答率は、市平均と比べて9.5ポイント低い。 ○実験の結果からあたためたときの金属と空気の体積の変化を比較できるかどうかをみる問題は、市平均より10.6ポイント高い。 ○試験管の水面近くを熱したときの水のあたため方を理解しているかどうかをみる問題は、市平均より8.3ポイント高い。 ●空気のあたため方と身の回りの現象を関連付けて理解しているかどうかをみる問題は、市の平均より20.2ポイント低い。 ●実験の結果から金属の温度と体積について読み取ることができるかどうかをみる問題は、市の平均より20.0ポイント低い。	・学習内容に関わる生活経験を振り返らせたり、既習事項から予想させたりすることで、自己の身近な生活の中での経験が実感を持った知識の習得につながるよう促していく。 ・実験の際は、実験の目的や計画を立てる場を設け、実験の準備について理解を深め、適切にできるようにする。 ・Aドリルやプリントで復習を行い、知識の定着を図る。
「生命」を柱とする領域	●平均正答率は、市平均と比べて10.0ポイント低い。 ○季節ごとの動物の活動について理解しているかどうかをみる問題は、市の平均より0.4ポイント高い。 ●骨と関節について理解しているかどうかをみる問題は、市平均より18.1ポイント低い。	・今後も自己の身近な生活の中で季節による気温の変化などの実感を伴った理解ができるようにする。 ・体の仕組みや植物の成長など、実際に観察をする体験を大切にして実感を持った理解へとつなげるようにする。 ・観察を通して、季節による動物の様子の変化を理解できるようにする。 ・Aドリルやプリントで復習を行い、知識の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	●平均正答率は、市平均と比べて6.3ポイント低い。 ○水の流れについて身近な出来事と関連付けて考えているかどうかをみる問題は、市平均より1.4ポイント高い。 ●星の色について理解しているかどうかをみる問題は、市平均より14.9ポイント低い。 ●実験の結果から水の流れる向きを読み取ることができるかどうかをみる問題は、市平均より10.2ポイント低い。	・実験後の結果と考察だけでなく、まとめ、振り返り、次時の導入場面などで実験から得られたポイントを確認をしていき、知識の定着を図る。 ・Aドリルやプリントで復習を行い、知識の定着を図る。

宇都宮市立城山中央小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 家庭で宿題に取り組んでいる児童の割合は市の平均と同程度であるが、授業の予習や復習などを行っている児童の割合は県や市の割合よりも少ない。
- 学習時間については、平日1時間以上の児童が66.7%と、市の平均50.3%よりも16.4ポイント上回った。また、土日の学習時間は、2時間以上の児童が22.2%と市の平均16.5%よりも5.7ポイント高く、平日、土日ともに、学習する習慣が定着していることが考えられる。
- 1カ月に読む本の冊数については、5冊以上読んでいる児童の割合が81.4%と市の平均を大きく上回っている。
- 「勉強していてもおもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的割合は100%、「勉強していても不思議だな、なぜだろうと感じることがある」のを肯定的割合も88.9%と市の平均を大きく上回っており、学習に対して興味を持って取り組んでいることがうかがえる。
- 「本やインターネットを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的割合が88.8%と、市の平均を20.8ポイント上回っており、クロームブックなどを使いながら調べることが定着している。
- 「グループの話し合いに自分から進んで参加している」、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的割合が市の平均を上回っており、話し合い活動、発表することについて、意欲的であることがうかがえる。
- 「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の肯定的割合は、市の平均を下回っており、どんな問題であっても最後まで、あきらめずに取り組むことができるようにさせていくことが課題である。
- 「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことが難しい」と考えている児童が70.3%で、市の平均よりも4.8ポイント低かった。授業の中で、自分の思いや考えを書く活動を増やしていく必要がある。
- 平日、1日当たりのテレビゲームに費やす時間が2時間以上あると回答した児童が55.5%と市の平均より11.4ポイント高かった。また、テレビゲームをしている時間が長い児童ほど各教科の正答率が低く、ゲーム機やスマートフォンとも関わり方を家庭と連携しながら改善していく必要がある。
- テストの問題を解く時間については、時間が足りなかったと回答した割合が、国語は37%、理科は14.8%と市の平均よりも高く、テストの時間配分について考えながら取り組ませる必要がある。

宇都宮市立城山中央小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・互いに認め合い、主体的に学ぶ児童の育成	・「居がい、やりがい、学び合いを目指した算数指導」の校内研修の充実 ・一人一授業等による「分かる授業」の研究実践 ・『城央小スタンダード』に基づいた授業の展開の研究 ・望ましい学級集団作りと学級活動の充実 ・児童の実態把握と達成感の達成への支援	・「宿題をきちんとやっている」「宿題は自分のためになっている」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」「友達の話や意見を最後まで聞くことができている」「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある」の平均肯定割合は約9割であった。 ・「勉強していても、面白い、楽しいと思うことがある」「授業でめあて・ねらいが提示されている」「授業を集中して受けている」の平均肯定割合が約8割であった。 ・「クラスは、発言しやすい雰囲気」の平均肯定割合が約7割を超え、「先生は学習のことをほめてくれる」「授業で分からないことを先生に聞くことができる」では、平均肯定割合が約8割を超えた。
・基礎的基本的な学力の獲得	・AIDリルや朝の学習時間の充実による基礎・基本の学力の定着 ・算数について4年生以上の学年で習熟度別学習の実施 ・パソコンや辞書などの活用の充実 ・「書くこと」を意識した授業の展開の工夫 ・漢字・計算検定の実施 ・家庭学習の習慣化 ・「家庭学習強化週間」の年2回の実施 ・「ぐんぐん学習だより」発行による家庭との連携	・国語と算数はほぼすべての領域で市の平均正答率より低かった。 ・国語では、「漢字の読み」「物語の登場人物の心情等の読み取り」の正答率は比較的高く、基本的な知識・技能が身に付きつつあることがうかがえる。 ・算数では、「思考・判断・表現」について、課題が見られている。 ・理科は第4学年は平均正答率が市とほぼ同じであったが、第5学年は不十分であった。 ・どの教科も、記述する解答形式での正答率が低く、無解答も多い。 ・家庭での学習時間については、4年児童が「30分時間以上(平日)」50%、5年児童が「30分以上(平日)」63%学習しており、学習習慣が身に付きつつあるが、「全くしない。30分以下(平日)」が各学年約1割いる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎・基本の学力が十分ではない。	・今年度行っていることに加えて、前学年の復習を取り入れた朝の学習や宿題の充実を図る。	・児童の実態により、宿題においても、前の学年の復習を取り入れるなど工夫をする。